

グループワークでの意見交換について

議員と大学生13名が2つのグループに分かれ、ひきこもり支援と貧困支援について意見交換を実施した。出された意見の概要は、次のとおりである。

1 ひきこもり支援について

(1) 付箋を使った意見出しの内容

- ・ひきこもりに対する偏見
- ・社会的つながりの低下
- ・ひきこもりの方がいる家庭がどこにも相談できず、地域の中で孤立してしまう
- ・地域内での孤立化
- ・つながりが少なく孤立しやすい
- ・家以外の居場所がない
- ・高齢者の孤立死

(2) 話し合われた内容（議員が集約）

福祉関係の実習や授業で学んだ知識、社会で起きている事象などをもとに発言された学生たちの意見をまとめると、以下の4点になる。

- ①当事者のニーズに合った外に出るきっかけを作れるような場が必要。
- ②「引きこもり」問題の対応は、行政だけが行うものではない。プライバシーに立ちいることなく社会的問題であることを住民が理解できるように、広く市民に対する社会教育的な学習機会を提供すること。
- ③SNSなど多様な媒体の活用による相談方法の拡充。
- ④ふじみ野市の特徴である総合相談窓口においては、相談者が心を開いて解決策にたどりつけるように更なる工夫を。

2 貧困支援について

(1) 付箋を使った意見出しの内容

- ・自分が貧困だったら、
 - ①経済的な理由で友人関係に引け目を感じそう
 - ②家のことを考えて「〇〇がしたい」が言いづらくなりそう
⇒孤立するかも。勉強・遊ぶ暇もないかも。
- ・遊び場（公園でのびのび）
- ・遊具
- ・支援…貧困からくる悩みを相談できる場所がほしい
- ・イベントを楽しめるような集まりを開催する（例：地域でクリスマス会を行う）

- ・体験格差の解消
- ・子どもの交友関係はどの様になっているのか？
⇒趣味はどんなものか？
- ・貧困家庭の食事と金銭問題について、食事の満足度は？栄養面・健康面は？
- ・ふじみ野市がもっと好きになるような体験
- ・多世代交流
- ・貧困について理解を深める勉強会を行う
- ・子どもが、食べ物・勉強・着るもの・住むところがちゃんとある社会
- ・子ども・子育てにお金がなくとも困らない社会
- ・ふっらと立ち寄れる居場所
- ・集会所を地域の相談拠点にしよう（貧困対策含む）
- ・いきいき福祉基金というのがあるが、この周知をしっかりとすることと、使い道を明確に子どもの貧困支援にももっと役立てられないか？こども食堂・居場所が14か所弱あるが、なかなか本当に困っている家庭（子ども）につながっていない。

（２）話し合われた内容（議員が集約）

- ・最近ボール遊びもできない。のびのび遊べる場所、ふらっと立ち寄れる場所が必要。
- ・公園にあった遊具が減っている。貧困だとおもちゃ（遊具）等が入手困難なので、たくさん置かれた施設があるといい。
- ・無料で予約のいらない誰でも立ち寄れる居場所が必要。
- ・貧困は友人関係にも影響が出ると思う。親にはそういった悩みを言えないと思うので相談できる場所が必要。
- ・集会所を地域の相談拠点にしては？（貧困対策になるかも）
- ・自然と集まることができるイベントを開催して欲しい。（例えば地域でクリスマス会など）
- ・ふじみ野市がもっと好きになるような体験をさせて欲しい。（自身の地元では地域特性を活かしたイベントがたくさんあった。例えばどんど焼きなど）
- ・体験格差の解消が必要。
- ・貧困世帯の子どもは交友関係を広げにくいのではないかと？自分の子どもの頃もゲームを通して友達と遊んでいたが、今はスイッチ（ゲーム機）が大流行で、ほとんどの子どもがそれを使って遊んでいるが、高価なものなので持っていない子どももいると思う。どうやって友達と遊んでいるのだろうか？
- ・子ども食堂は本当に利用して欲しい人につながっているのか？
- ・栄養や食事の満足度が心配だ。
- ・子ども自身と子育てにお金がなくとも困らない社会にしたい。
- ・子どもにとっては環境が一番大事だと思う。
- ・子どもの貧困について学ぶことが必要だと思う。貧困に対する偏見をなくすることが大事だと思う。